

6.1 内積 ~ 2つのベクトルの類似性を測る為の最初の手がかり.

#6-1-1

def. ^{inner product} 内積とは、2つのベクトルから1つのスカラー値を出力する二項演算で、以下の性質を持つもの.

← 実数 or 複素数

1. (交換) $(a, b) = \overline{(b, a)}$ ← 複素共役

2. (結合) $(c_1 a_1 + c_2 a_2, b) = \overline{c_1} (a_1, b) + \overline{c_2} (a_2, b)$

3. (自己) $(a, a) \geq 0$, かつ, $(a, a) = 0 \Leftrightarrow a = 0$.

1. の 必ず実数になる.

... $a, b \in V$ に対し、内積を (a, b) と書くとして.

注. $a = \{a_i\}_{i=1}^n, b = \{b_i\}_{i=1}^n \in \mathbb{C}^n$ に対し $(a, b) := \overline{a_1} b_1 + \overline{a_2} b_2 + \dots + \overline{a_n} b_n = \overline{a}^T b$ と \mathbb{C}^n の標準内積と言ったりする.

\mathbb{R}^n の場合は $(a, b) = a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n = a^T b$ が標準内積だ.

④ 内積は一意に決まらないうえ、好きなもの、便利なものを作れる。

重みは0より大きければなんでも良い

例1. 重み付きの内積 for \mathbb{R}^n : $(a, b) := a_1 b_1 + 2 a_2 b_2 + 3 a_3 b_3 + \dots + n a_n b_n$ とし、

例2. 多項式の集合 $V = \mathbb{R}[x]_n$ に対して

$$(f, g) = \int_a^b f(x) g(x) dx, \quad (a < b, f, g \in V) \quad \text{とし.}$$

さらに重み付き

$$\hookrightarrow \text{''} = \int_a^b \mu(x) f(x) g(x) dx, \quad (\text{''} \quad \& \quad \mu(x) > 0) \quad \text{とし.}$$

これも内積にする。

$$\hookrightarrow \text{''} = \int_1^2 x^2 f(x) g(x) dx, \quad (\text{''}) \quad \text{とし.}$$

内積の座標による計算 (一般の基底で).

$$V \text{ の基底 } \mathcal{E} = \{u_1, \dots, u_n\}, \quad a, b \in V \text{ とする } a = \sum_{k=1}^n a_k u_k, \quad b = \sum_{k=1}^n b_k u_k \text{ とすると,}$$

a の座標 b の座標 #6-1-3

内積は

$$(a, b) = \left(\sum_i a_i u_i, \sum_j b_j u_j \right) = \sum_i \bar{a}_i \left(\sum_j \underbrace{(u_i, u_j)}_{M_{ij} \text{ とする}} b_j \right)$$

$$= (\bar{a}_1 \bar{a}_2 \dots \bar{a}_n) \begin{pmatrix} M_{11} & \dots & M_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ M_{n1} & \dots & M_{nn} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_n \end{pmatrix} \text{ とする.}$$

$$\text{要は } (u_i, u_j) = \begin{cases} 1: i=j \\ 0: i \neq j \end{cases} \text{ を基底.}$$

#6-2-1 で扱う.

Point. U が正規直交基底の時は $M=I$ となり話が簡単なのだ.

例. \mathbb{R}^3 の基底 $\mathcal{E} = \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\}$ とし $a, b \in \mathbb{R}^3 \in U = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して

$a = U \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}, \quad b = U \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ と座標表示すると、標準内積に対して

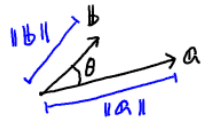
$$(a, b) = (a_1 \ a_2 \ a_3) \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix} = a_1(2b_1 + b_2 + b_3) + a_2(b_1 + 2b_2 + b_3) + a_3(b_1 + b_2 + 2b_3) //$$

def. ベクトルの長さ (内積から自然に導かれるノルム)

$$\|a\| := \{(a, a)\}^{1/2}$$

↓ 更に.

\mathbb{R}^n の標準内積
に対してはユークリッドノルムによる。その一般化だ。



def. ベクトルの間の角度

$$\theta := \arccos \left(\frac{(a, b)}{\|a\| \cdot \|b\|} \right)$$

\mathbb{R}^n の標準内積の時、ユークリッドノルムを用いて
 $(a, b) = \|a\| \|b\| \cos \theta$
だったので、それを一般化したのだ。

def. 直交性

def. a と b が直交 $\Leftrightarrow (a, b) = 0$. ($a, b \neq 0$ として)

← これも一般化だ。

例. $V = \mathbb{R}[x]_1$ で $f, g \in V$ に対して $(f, g) := \int_0^1 f(x)g(x) dx$ の時、

- $a = 1+x$ に対して $\|a\| = \sqrt{7/3}$
- a と直交するベクトルは $3x - 5/3$,
- $b = x-1$ " a と b の間の角度は $2.42786 \dots$ rad.

確認しよう!
↓

etc. と計算できる。

いくつかの有用な不等式. ~ 当たり前のように多用するぞ.

• Schwartz の不等式: $|(a, b)| \leq \|a\| \|b\|$

↑ 絶対値抜きで等号が成り立つのは a と b の向きの角度 $= 0$ の時. ($a, b \neq 0$ とし)
つまり, a と b が同じ向きの時だ.

• 三角不等式: $\|a+b\| \leq \|a\| + \|b\|$

↑
↑
• この2つの不等式が #6-1-5 下部の a, b に
対して成り立つことを確かめておこう.

(オマケ) ベクトル空間 V の部分空間 W に対して,

$$W^\perp := \{ a \in V \mid (a, b) = 0 \text{ for } \forall b \in W \}$$

を W の直交補空間と言う.